



くすのき あきこ
ぶん・楠 章子 え・たなか ふみこ
監修：国立モンゴル医学・科学大学
歯学部 客員教授 岡崎 好秀

あらあら、むし^ば歯が、ありますね。
「いいの、いいの」
いたくないし。歯^はいしやさんは、こわいし。



それより、きょうは、とってもいいてんき。
おさんぽに いっちょお。





こ
子ダヌキが、おひるねしています。
すーすー、すやすや、いいきもち。
おやまあ、おくちのなかが、まるみえですね。

あーん。



「うわあ、おもしろい！」
ミルちゃんのかえに おどろいて、
子タヌキは、めをさました。
「どうしたの！ なにがおもしろいの？」
「タヌキちゃんの^は歯、
わたしとは、ちがうのね」





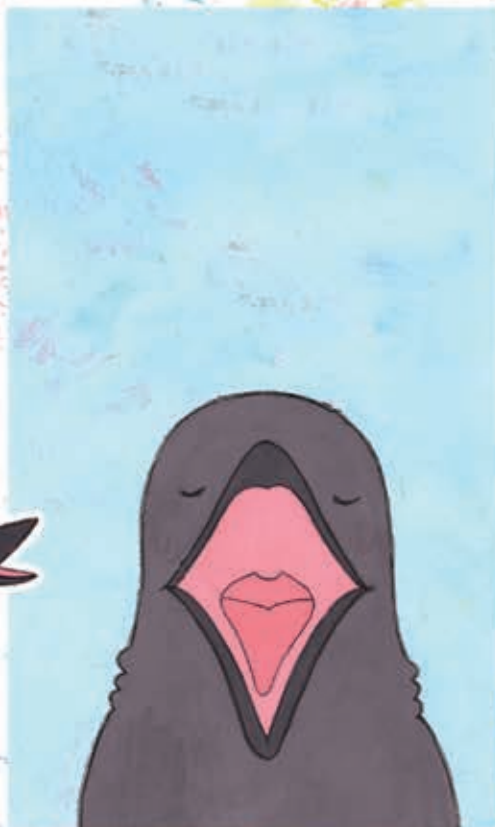
みんな、ちがうのかな？

ミルちゃんは、みんなに たのみました。

「おくちのなか、みせて」

「いいよー」

あーん。





「みんな、ちがうだね」
 は
 歯がちがえば、たべるものや たべかたが、
 ちがってきます。
 たべるために、は
 歯が ちがっているのです。

「おーい、そろそろかえっておいでー」
ひょこひょこ、むこうから、
タヌキのおじいさんが、あるいてきます。



「みんなのおくちのなか、みせてもらってたんだよ」
「みんな、^は歯がちがうのよ」
子ダヌキとミルちゃんは、いいました。
「ふむ。じゃあ、わしのも、みせてやろう」
（タヌキの^は歯は、もうみたよ）
ミルちゃんは、おもいました。

ほらね、子ダヌキと おなじです。

「すごいじゃろ」

と、タヌキのおじいさん。

「すごい？」

ミルちゃんは、くびをかしげました。



「としをとって、
これだけ^は歯があるのは、すごいんじゃぞ」
タヌキのおじいさんは、むねをはります。
ずっと、^は歯をたいせつにしてきたおじいさん。
いまでも、しっかりかんで、たべることができます。

「だから、おじいちゃんは、げんきなんだね」
^こ子タヌキがいうと、おじいさんは、しろい^は歯をみせて、
にっとわらいました。
「^は歯をだいじに。それが、ながいきの ひけつじゃ！」



つぎのひ。

ミルちゃんは、^は歯いしやさんに、いきました。

はい、あーん。



むし^は歯をふせぐには、
どうしたらいいかな？

^は歯をみがく。
だらだら、ながいあいだ、
おやつをたべつづけない。
たべものをよくかんで、
つばをだす。
シーラントを^は歯にぬる。

